

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3871100255
法人名	有限会社 トムモロー
事業所名	グループホーム 憩の郷
所在地	愛媛県松山市柳原720番地
自己評価作成日	平成21年8月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載](#)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 21 年 11 月 16 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域のサービス事業者間や行政機関との連携に力を入れています。
 近くに海岸があり、徒歩や車椅子での散歩をしており、眺めが良く、ゆったりとした時間を過ごせます。
 食事はおいしいと多くの利用者が言ってくれます。
 出来る力は発揮していただき、出来ないことは援助して、不安のない毎日を過ごしていただきたいと思っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設して7年余りを経過し、ホームは地域の福祉向上に熱心に取り組んでおり、現在は地域の他事業者と協力しながら、地域への発信を目的とする「徘徊対応マニュアル」の作成に取り組んでいる。代表者及び管理者は地域密着型事業所としての意義を十分理解したうえで、関係医療施設、居宅介護事業所等とも連携しながら重度の利用者も積極的に受け入れている。また、できるだけ職員が研修を受講できるように配慮し、サービスの質の向上に努めている。毎年、寿司職人を招いての実演による食事は、利用者にも好評である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含まれます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含まれます。

- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含まれます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名	グループホーム 憩の郷
(ユニット名)	1F
記入者(管理者)	
氏名	山内 栄樹
評価完了日	H. 21 年 8 月 15 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) すぐ目に付く玄関に理念を掲げており、全員理解は出来ているが、日々忘れがちであり、管理者はその時々には職員に理念が実践できていないことを指摘し、指導している。</p> <p>(外部評価) 3つの短い言葉「目配り、気配り、心配り」に集約している。管理者は、全職員が理解したうえで実践につなげられるようにミーティング時等に職員と話し合いを行っている。職員も理念を理解し、実践できるよう努力している。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	<p>(自己評価) 開設7年が過ぎ、それと共に利用者の身体状況も変化して来ており、日常的な地域との交流は難しい状況になって来てはいる。そんな中で、美容室、理髪店、時には喫茶店など、利用者の健康状態に合わせた在り方での交流に努めている。</p> <p>(外部評価) 利用者が年々重度化する中で、管理者、職員共に地域との交流が難しくなっていると感じており、取り組みには苦慮している。利用者の身体状況等により、可能な場合は交流に努めているが、最近では、民生委員から地域のサロンへのお誘いをいただいたにもかかわらずお断りしたということもあった。</p>	利用者が近所に出かけることだけでなく、近所の方が訪問しやすい環境を整えたり、地域の保育園や学校との交流やボランティア等との交流を継続することを期待したい。また、外出時や行事等には家族の参加をお願いするなど、家族への働きかけをさらに積極的に行うことにも期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 地域の方達にかなり知られて来てはいると思う。管理者は、地区の地域密着型サービス事業者と協力しながら、事業者間の連携・地域の皆さんへの発信を目的として「徘徊対応マニュアル」の作成段階に入っている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	(自己評価) 市の職員・地域の方々・利用者の家族・職員を交え、 ホームの状況を報告し、意見を聞いてサービス向上に 活かしている。会議に於いての意見等は各ユニットに 持ち帰り話し合い見直し実践するよう心掛けている。	
			(外部評価) 定期的に開催し、民生委員、元区長、市担当者、地域 包括支援センター、家族等充実した参加者を得て、報 告や話し合いを行っている。地域との連携を強化でき るような取り組みについて検討し、ホームを会場とし て介護教室を実施するなど、サービス向上に活かして いる。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くように 取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議には、市社協・市担当者・地域包括支援 センターの担当者も毎回参加して下さっており、協力 関係は出来ている様に思う。	
			(外部評価) 管理者は、地域包括支援センター主催で毎月1回地区 の地域密着型サービス事業者を対象として開催される サービス調整会議に参加し、相互交流やネットワー クづくりに積極的に取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正し く理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 玄関は出入りをするとチャイムがなるようにしており 施錠はしていない。物による身体拘束はしていない が、抑圧感のある言葉による拘束をしがちなので指導 に努めている。	
			(外部評価) 身体拘束はしないことをホームの方針として掲げ、全 職員で拘束のないケアに取り組んでいる。出入り口は チャイムが鳴るようにしており、職員の見守りで安全 を確保している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 職員詰所のテーブルに虐待防止を喚起する書面を貼っている。職員同士で気になることがあった時は話し合いを持っている。目に見えない心理的虐待を管理者は特に注意して見ており、正しい虐待の内容について理解させ根絶しなければならないと考えている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修会に参加もしたが、現在、利用者に成年後見制度を利用しなければならない人がいないこともあり、まだ活用は出来ていない。今後も機会を見つけては学んでいきたい。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 十分な説明を行っているつもりである。開設以来、契約時の説明以降、再度説明を求めて来る事はなかった。料金改定ときは3ヶ月前より運営推進委員会で議題に上げ、その後利用者家族にも説明の上、全員納得していただき改定に至った。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 御意見箱の設置をしている。また、運営推進会議も家族代表の方に参加していただき、質問や意見を言ってお下さっているので、機会は十分ではないかと思っている。	
			(外部評価) 運営推進会議の中で家族から出された意見により、ホーム前の道路に横断歩道が設置されたり、行事への参加を案内して参加を得るなどしている。また、敬老会を兼ねた食事会を毎年開催し、家族が意見を出しやすい雰囲気づくりに配慮している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) ユニット毎のミーティングには、代表者や管理者も参加し意見を聞くようにし、できることは反映している。 (外部評価) ユニットごとのミーティングに、代表者及び管理者も参加して職員の要望を聞くようにしており、介護用品の購入等についての意見も反映させている。また、運営に関することも職員に資料を見せるなどして理解してもらえるように説明している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 給与水準を言われれば苦しい点はあると思う（この業界全体が低い）。しかし、近隣のグループホームに比べて低いほうではない。やりがいを持って働けるよう個々の相談に出来るだけ耳を傾け、休み希望を聞きながら勤務表を作り、資格手当により向上心を持てるよう努めている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 地域で行われる様々な研修講座を職員に伝え、希望する研修の受講料は会社負担にて参加してもらっている。出来るだけ多く受けていただけるよう声掛けに努めている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 管理者は、愛媛県グループホーム連絡協議会による相互交流やネットワークづくりに取り組んでいる。職員はなかなかそういった機会がないが、機会があれば進んで参加してもらい、交流による職員の質向上に努めたい。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入居される前にはできるだけ本人と面談し、困っていることや要望等を聞き、すぐには無理であるが、時間を掛け、安心を確保する努力はしている。場合により面談できない方もいるが、入所後に要望を聞きながら対応している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入居される前は必ず家族と面談し、困っていること、不安なこと、要望等を聞いている。非協力的な家族の場合は担当のケアマネージャーと協力し、本人の意向を踏まえながら進めている。全職員に報告し、入居してからの生活がスムーズに送れるよう努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人と家族の希望している支援に努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 職員と利用者は「介護する」「される」関係になりやすく、その意識が言葉や行動に表れるときがある。時間に余裕を持ち、できるだけ利用者と一緒に過ごすよう日々努力している。	
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 介護する側の目線になりがちであるが、家族の来所時に話を聞いたり、電話で意向を聞いたりしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 希望される方には馴染みの美容室へ出掛ける援助や近所へ出掛ける等の支援はしている。馴染みの方が来所されたときは、また来ていただけるよう声掛けをしている。 (外部評価) 家族の来訪は多く、関係が途切れないよう毎月ホームでの様子を担当職員が手書きで記入して送っている。希望があれば墓参り、かかりつけ医への通院介助、美容院への送迎等も支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) お元気な方が身体の不自由な方の着替えや洗面所の掃除を手伝ったり、部屋で楽しく話をされたりしている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退所後しばらくは支援しているが、年月と共に疎遠になっていくのは致し方ないと思っている。協力を求められれば相談に乗ったり支援をするつもりである。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 利用者の生活レベルも徐々に低下して来ており、対応が難しくなっては来ている。一人ひとりの意向を知りたいと努力はしている。 (外部評価) 介護計画の作成時には「できること、できないことシート」を利用して、思いや意向の把握に努めている。職員は、日常的に利用者と接する中で本人の意向を汲み取り、ミーティングで他の職員の意見を聞きながら情報を共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 家族や担当ケアマネージャに聞いたり、入所後は利用者との会話の中で把握できるよう努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) それぞれ利用者の現状や健康状態を把握し、ペースに合わせて過ごせるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	<p>(自己評価) ミーティングで、家族から聞いた意見なども交えながらそれぞれの意見を出し、介護計画を作成している。介護計画として上がらない様な（例えば、部屋の飾りつけに関する様な事）内容の希望が家族からあった場合にも極力早い対応はしている。</p> <p>(外部評価) 毎月のミーティングで全職員で話し合っ意見交換している。職員は利用者ごとの担当制にしており、担当者が介護計画の内容について実施状況等を評価し、他の職員の意見も聞きながら見直している。介護計画は本人及び家族に説明して同意を得ている。</p>	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	<p>(自己評価) 個別記録には日々の様子等を記録し、伝言ノートには特に大切な事柄を記録し、職員同士の情報共有に努めている。</p>	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	<p>(自己評価) 本人や家族の意向は極力尊重しながら支援しているつもりである。</p>	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	<p>(自己評価) その様に心掛けてはいるのだが、まだまだ努力しなければと思っている。 限られた職員の人数では、地域資源の場へ同行するのはなかなか難しいところもある。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価) 協力医療機関の医師をかかりつけ医とする場合は必ず 家族や本人の同意を得ており、馴染みのかかりつけ医 の治療を希望される場合は今まで通り通えるよう支援 している。この点は利用者も家族も満足しておられる と思う。</p> <p>(外部評価) 入居前からのかかりつけ医に通院している利用者が数 名いるが、通院介助はホームが行っている。また、協 力医療機関からの定期的な往診があり、健康管理に努 めている。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	<p>(自己評価) 体調の変化や身体の変化があった場合、職場内の看護 職員や訪問診療時に医師や看護師に相談しながら、病 院受診や観察をし、適切に支援している。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価) 入院された場合、職員は積極的に訪問し、孤立感を感 じない様に配慮し、病院の医師や相談員と早期退院に 向けての話し合いをしている。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価) 家族・主治医・管理者・職員とが話し合う機会を設 け、対応方針の共有を図っている。 協力病院もよく協力して下さる。</p> <p>(外部評価) ホームでの看取りの経験があり、家族、医師、ホーム で十分話し合い、対応方針を共有して取り組むことが できた。協力医療機関の医師から終末期の研修を受け たり、気軽に相談できる等の良好な協力関係を築いて いる。</p>	<p>本人及び家族の希望があれば終末期ケアに対応する方 針であるため、職員の介護力の強化が必要不可欠であ る。また、医療関係者との連携もますます必要と思わ れる。本人及び家族が安心して終末期を迎えられるよ う、職員の研修等を継続して実施することを期待した い。</p>

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 定期的には行っていないが、マニュアルによって対応している。そのような講習会や研修会があるときには参加を促している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) マニュアルに沿って対応できるようにしている。火災時には自動で職員に連絡がいくようにしており、近隣の方との協力体制も出来ている。 (外部評価) 火災通報装置により、自動的に関係者に連絡が行くようになっている。また、近所の方にも協力を依頼し、協力体制を築いている。また、風水害については市から消防計画作成の指示があり、再検討中である。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 時折、気付かぬうちにプライバシーを侵害する言葉を発しているときがある。利用者の人格を尊重し、心を傷つけることのないよう、全職員が利用者の尊厳と権利を守れるように指導している。 (外部評価) 方言や、家族間の会話のような言葉かけには愛情が感じられるが、気になる言葉かけや対応があった場合は職員間で注意し合って初心を忘れないようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 新人職員が増えたこともあり、日々の介護に追われてしまい、利用者の皆さんの思いや希望を察知して援助につなげていく事が十分には出来ていないかもしれない。日々努力はしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 職員側の決まりや都合が優先される場合もあるが、極力、利用者一人ひとりのペースを大切にしているつもりである。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 希望される理・美容院がある方には、その希望に沿って支援している。意思決定の出来る方には服を選んで購入していただいたり、着替えの時は希望される服を着れるよう支援している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食事の準備は、野菜の下ごしらえ程度を手伝ってもらうことしか出来ない。後片付けでは、お盆や机を拭いていただいたり、エプロンを洗っていただいたりしている。 (外部評価) 食材は職員が買いに行き、旬の食材を使うことを心がけ、協力医療機関のメニューを参考にして栄養面にも配慮している。メニューや朝食の時間等は利用者に合わせているためユニットごとに異なっている。食事の形態や盛り付け等も利用者の状態に合わせている。利用者はできることを無理なく行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 全部おいしく食べていただけるように、その人に合った硬さや形態をとっている。活動量の多い方や発熱や下痢のある人など、一人ひとりの状態に合わせた水分を摂取できるよう支援している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) プライバシーに配慮した声掛けをしながら、食後の口腔ケアの支援をしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄状況を記録しながらパターンを把握し、極力トイレでの排泄支援を心掛けてはいるが、年々、おむつ使用回数（枚数）が増えているのは事実である。	
			(外部評価) 重度化に伴いオムツの使用が多くなってきているが、できるだけトイレで排泄できるように声かけやトイレ誘導に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 頑固な便秘の方は、排便状況を見ながら薬やセンナ茶に頼らざるを得ないが、極力、食事に野菜をたくさん取り入れるようにしたり、水分摂取の声掛けをしながら便秘の予防を図っている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 一人ひとりの希望に沿った入浴日の設定はなかなか困難ではあるが、時間帯の希望には出来るだけ応じるよう努力している。入浴拒否をされる方には、いろいろ声掛けを工夫して無理強いをしないように心掛けている。	
			(外部評価) シャワー浴の設備もあり、浴槽に入れない場合の対応もできるようにしている。手すりの設置も工夫し、安全に入浴できるよう配慮している。浴室は明るくきれいで掃除も行き届いている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 強制的な就寝の指示は行っていない。 一人ひとりの好きな時間帯で休息を取れるよう支援をしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 投薬内容表のファイルを作り用法や容量を理解し、気になる変化があったときは副作用をすぐチェックしている。定期薬を処方していただくときも、本人の状態を説明し服薬調整をしてもらっている。錠剤の飲みにくい方は粉末にさせていただいたり、ゼリーに混ぜて飲んでいただいたりしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 車椅子、押し車を使用する方が増えたため体を動かすことは減ってきたが、歌を歌ったり外のベンチで気分転換を図ったりしている。ビールの好きな方は夕食時に飲んでいただいている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 戸外の気温や体調等を考慮しながら、日向ぼっこや花の世話など自由に出来るようにしている。盆踊りやお祭り等、見物に行けるよう支援している。本人の出かける希望が遠方の場合、家族に相談し協力していただいている。 (外部評価) 以前は外出に出かけたり遠出のドライブを楽しむなど、外出する機会も多かったが、車いすの利用者も多くなり、日常的な外出の支援が難しくなっている。	家族の協力を得たり、ユニット間での職員の連携等により、できるだけ利用者の希望に添って外出する機会を確保する取り組みを期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 以前はお金を所持している方もおられたが、今は認知症の進行した方が多く、実際に使える方がほとんどおられない。お金が必要な時はいつでもお出しすることをお伝えし、安心していただいている。利用者からお預かりしたお金の使途は毎月家族に報告し、高額な商品希望される場合はその都度家族に相談している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	(自己評価) 利用者が電話を掛ける場合は時間帯に注意し自由に使ってもらっている。手紙を送りたい時も支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) トイレや風呂場等には絵で表示したり“使用中”のカードをつける等の工夫をしている。リビングには季節の花を生けたり、季節感を感じる手作りのカレンダーや壁飾りを作っている。</p> <p>(外部評価) 台所に仕切りがないため食堂・リビングは広く、明るく清潔で居心地のよい空間となっている。利用者はリビングに集まってゆったりとテレビを見るのが楽しみの一つとなっている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) 完全な個室であり、一人になれる空間は確保できている。共有空間は広さに限界もあり、リビングに2、3人で過ごせるような家具の配置のスペースはないが、ダイニングを利用したり、玄関のベンチを利用させていただいている。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 入居時には、出来るだけ馴染みの物を持って来ていただくようお願いしている。危険物や本人さんの現在の身体状況では危険かなと思われる物以外は制限していない。仏壇を置かれている方もいらっしゃる、花などは職員が交換したりしている。</p> <p>(外部評価) 各居室には押入れがあり、荷物等を整理することができるため居室を広く利用できるように、使い慣れた家具や仏壇等を持ち込んでいる利用者もいる。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 押し車や歩行器・車椅子を使用する方が増えており、スペース的な制約がある。共有スペースの椅子やテーブルの配置や押し車、歩行器の安全な誘導等、出来る範囲での工夫はしているつもりである。</p>	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3871100255
法人名	有限会社 トムモロー
事業所名	グループホーム 憩の郷
所在地	愛媛県松山市柳原720番地
自己評価作成日	平成21年8月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載](#)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 21 年 11 月 16 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域のサービス事業者間や行政機関との連携に力を入れています。
 近くに海岸があり、徒歩や車椅子での散歩をしており、眺めが良く、ゆったりとした時間を過ごせます。
 食事はおいしいと多くの利用者が言ってくれます。
 出来る力は発揮していただき、出来ないことは援助して、不安のない毎日を過ごしていただきたいと思っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設して7年余りを経過し、ホームは地域の福祉向上に熱心に取り組んでおり、現在は地域の他事業者と協力しながら、地域への発信を目的とする「徘徊対応マニュアル」の作成に取り組んでいる。代表者及び管理者は地域密着型事業所としての意義を十分理解したうえで、関係医療施設、居宅介護事業所等とも連携しながら重度の利用者も積極的に受け入れている。また、できるだけ職員が研修を受講できるように配慮し、サービスの質の向上に努めている。毎年、寿司職人を招いての実演による食事は、利用者にも好評である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含まます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含まます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含まます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム 憩の郷

(ユニット名) 2F

記入者(管理者)
氏名 山内 栄樹

評価完了日 H. 21 年 8月 15 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) すぐ目に付く玄関に理念を掲げており、全員理解は出来ているが、日々忘れがちであり、管理者はその時々 に職員に理念が実践できていないことを指摘し、指導 している。</p> <p>(外部評価) 3つの短い言葉「目配り、気配り、心配り」に集約し ている。管理者は、全職員が理解したうえで実践につ なげられるようにミーティング時等に職員と話し合い を行っている。職員も理念を理解し、実践できるよう 努力している。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続け られるよう、事業所自体が地域の一人とし て日常的に交流している	<p>(自己評価) 開設7年が過ぎ、それと共に利用者の身体状況も変化 して来ており、日常的な地域との交流は難しい状況に なって来てはいる。そんな中で、美容室、理髪店、時 には喫茶店など、利用者の健康状態に合わせた在り方 での交流に努めている。</p> <p>(外部評価) 利用者が年々重度化する中で、管理者、職員共に地域 との交流が難しくなってきたと感じており、取り 組みには苦慮している。利用者の身体状況等により、 可能な場合は交流に努めているが、最近では、民生委 員から地域のサロンへのお誘いをいただいたにもかか わらずお断りしたということもあった。</p>	利用者が近所に出かけることだけでなく、近所の方が 訪問しやすい環境を整えたり、地域の保育園や学校と の交流やボランティア等との交流を継続することを期 待したい。また、外出時や行事等には家族の参加をお 願いするなど、家族への働きかけをさらに積極的行 うことにも期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認 知症の人の理解や支援の方法を、地域の 人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 地域の方達にかなり知られて来てはいると思う。管理 者は、地区の地域密着型サービス事業者と協力しなが ら、事業者間の連携・地域の皆さんへの発信を目的と して「徘徊対応マニュアル」の作成段階に入ってい る。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	(自己評価) 市の職員・地域の方々・利用者の家族・職員を交え、 ホームの状況を報告し、意見を聞いてサービス向上に 活かしている。会議に於いての意見等は各ユニットに 持ち帰り話し合い見直し実践するよう心掛けている。	
			(外部評価) 定期的開催し、民生委員、元区長、市担当者、地域 包括支援センター、家族等充実した参加者を得て、報 告や話し合いを行っている。地域との連携を強化でき るような取り組みについて検討し、ホームを会場とし て介護教室を実施するなど、サービス向上に活かして いる。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くように 取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議には、市社協・市担当者・地域包括支援 センターの担当者も毎回参加して下さっており、協力 関係は出来ている様に思う。	
			(外部評価) 管理者は、地域包括支援センター主催で毎月1回地区 の地域密着型サービス事業者を対象として開催される サービス調整会議に参加し、相互交流やネットワー クづくりに積極的に取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正し く理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 基本的には身体拘束はしないが、オムツはずしやオム ツ内の便を投げる等の不潔行為、歩行困難な方への ベッド柵等、やむをえない場合のみ家族の理解を承 求めている。	
			(外部評価) 身体拘束はしないことをホームの方針として掲げ、全 職員で拘束のないケアに取り組んでいる。出入口は チャイムが鳴るようにしており、職員の見守りで安全 を確保している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 防止に努めているが、慣れからか言葉での虐待はあると思うので注意していきたい。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修会に参加もしたが、現在、利用者に成年後見制度を利用しなければならない人がいない事もあり、まだ活用は出来ていない。今後も機会を見つけては学んでいきたい。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 十分な説明を行っているつもりである。開設以来、契約時の説明以降、再度説明を求めて来る事はなかった。料金改定の際は3ヶ月前より運営推進委員会で議題に上げ、その後利用者家族にも説明の上、全員納得していただき改定に至った。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 御意見箱の設置をしている。また、運営推進会議も家族代表の方に参加していただき、質問や意見を言ってお下さっているので、機会は十分ではないかと思っている。	
			(外部評価) 運営推進会議の中で家族から出された意見により、ホーム前の道路に横断歩道が設置されたり、行事への参加を案内して参加を得るなどしている。また、敬老会を兼ねた食事会を毎年開催し、家族が意見を出しやすい雰囲気づくりに配慮している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) ユニット毎のミーティングには、代表者や管理者も参加し意見を聞くようにし、できることは反映している。 (外部評価) ユニットごとのミーティングに、代表者及び管理者も参加して職員の要望を聞くようにしており、介護用品の購入等についての意見も反映させている。また、運営に関することも職員に資料を見せるなどして理解してもらえるように説明している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 給与水準を言われれば苦しい点はあると思う（この業界全体が低い）。しかし、近隣のグループホームに比べて低いほうではない。やりがいを持って働けるよう個々の相談に出来るだけ耳を傾け、休み希望を聞きながら勤務表を作り、資格手当により向上心を持てるよう努めている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 地域で行われる様々な研修講座を職員に伝え、希望する研修の受講料は会社負担にて参加してもらっている。出来るだけ多く受けていただけるよう声掛けに努めている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 管理者は、愛媛県グループホーム連絡協議会による相互交流やネットワークづくりに取り組んでいる。職員はなかなかそういった機会がないが、機会があれば進んで参加してもらい、交流による職員の質向上に努めたい。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入居される前にはできるだけ本人と面談し、困っていることや要望等を聞き、すぐには無理であるが、時間を掛け、安心を確保する努力はしている。場合により面談できない方もいるが、入所後に要望を聞きながら対応している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入居される前は必ず家族と面談し、困っていること、不安なこと、要望等を聞いている。非協力的な家族の場合は担当のケアマネージャーと協力し、本人の意向を踏まえながら進めている。全職員に報告し、入居してからの生活がスムーズに送れるよう努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 知り得た情報をもとに、必要な支援の見極めに努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 現在、身体介護の必要な方が多く、暮らしを共には出来ていないかもしれない。プライバシーに配慮しながら良い関係が築けるよう努力していきたい。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族を支援される立場にはおいていないが、なかなか話し合いを持つ時間がとれない。家族が来所されたときに話をしたり、毎月ホームでの様子を書いた紙を送り、家族との絆が途切れないよう努力はしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 面会などは自由にして頂いているが、関係が途切れないような支援を個々にするのは難しい。近くのお墓参りに同行したり、家族と協力しながら菩提寺での法事に同行したりはしている。 (外部評価) 家族の来訪は多く、関係が途切れないよう毎月ホームでの様子を担当職員が手書きで記入して送っている。希望があれば墓参り、かかりつけ医への通院介助、美容院への送迎等も支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 言葉を理解できない方が多く、一部の方のみ関わり合える現状であるが支援はしている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退所後しばらくは支援しているが、年月と共に疎遠になっていくのは致し方ないと思っている。協力を求められれば相談に乗ったり支援をするつもりである。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 一人ひとりの思いを分かりたいと努めている。とても難しい事であるし、不満に思われているかもしれない。 (外部評価) 介護計画の作成時には「できること、できないことシート」を利用して、思いや意向の把握に努めている。職員は、日常的に利用者と接する中で本人の意向を汲み取り、ミーティングで他の職員の意見を聞きながら情報を共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 日々接する中で理解し居心地のよい場所になってほしいと思っている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 一人ひとりの状況の把握は出来ていると思うが、有する力の発揮はさせて上げられてないかもしれない。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	<p>(自己評価) ミーティングで、家族から聞いた意見なども交えながらそれぞれの意見を出し、介護計画を作成している。職員サイドの考えが中心になりがちであり、家族の面会時に意向を聞こうとするが、あまり意見は聞かれない。</p> <p>(外部評価) 毎月のミーティングで全職員で話し合っ意見交換している。職員は利用者ごとの担当制にしており、担当者が介護計画の内容について実施状況等を評価し、他の職員の意見も聞きながら見直している。介護計画は本人及び家族に説明して同意を得ている。</p>	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	<p>(自己評価) 個別記録には日々の様子等を記録し、伝言ノートには特に大切な事柄を記録し、職員同士の情報共有に努めている。</p>	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	<p>(自己評価) 本人や家族の意向は極力尊重しながら支援しているつもりである。</p>	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	<p>(自己評価) その様に心掛けてはいるのだが、まだまだ努力しなければと思っている。 限られた職員の人数では、地域資源の場へ同行するのはなかなか難しいところもある。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価) 協力医療機関の医師をかかりつけ医とする場合は必ず 家族や本人の同意を得ており、馴染みのかかりつけ医 の治療を希望される場合は今まで通り通えるよう支援 している。この点は利用者も家族も満足しておられる と思う。</p> <p>(外部評価) 入居前からのかかりつけ医に通院している利用者が数 名いるが、通院介助はホームが行っている。また、協 力医療機関からの定期的な往診があり、健康管理に努 めている。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	<p>(自己評価) 体調の変化や身体の変化があった場合、職場内の看護 職員や訪問診療時に医師や看護師に相談しながら、病 院受診や観察をし、適切に支援している。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価) 入院された場合、職員は積極的に訪問し、孤立感を感じ ない様に配慮し、病院の医師や相談員と早期退院に 向けての話し合いをしている。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価) 早い段階から急変したときの対応（積極的な治療を望 むかどうか）を家族に伺い、重度化してから再度話し 合いを行い、支援に取り組んでいる。</p> <p>(外部評価) ホームでの看取りの経験があり、家族、医師、ホーム で十分話し合い、対応方針を共有して取り組むことが できた。協力医療機関の医師から終末期の研修を受け たり、気軽に相談できる等の良好な協力関係を築いて いる。</p>	本人及び家族の希望があれば終末期ケアに対応する方 針であるため、職員の介護力の強化が必要不可欠であ る。また、医療関係者との連携もますます必要と思わ れる。本人及び家族が安心して終末期を迎えられるよ う、職員の研修等を継続して実施することを期待した い。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 定期的には行っていないが、マニュアルによって対応している。そのような講習会や研修会があるときには参加を促している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) マニュアルに沿って対応できるようにしている。火災時には自動で職員に連絡がいくようにしており、近隣の方との協力体制も出来ている。 (外部評価) 火災通報装置により、自動的に関係者に連絡が行くようになっている。また、近所の方にも協力を依頼し、協力体制を築いている。また、風水害については市から消防計画作成の指示があり、再検討中である。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 時折、気付かぬうちにプライバシーを侵害する言葉を発しているときがある。利用者の人格を尊重し、心を傷つけることのないよう、全職員が利用者の尊厳と権利を守れるように指導している。 (外部評価) 方言や、家族間の会話のような言葉かけには愛情が感じられるが、気になる言葉かけや対応があった場合は職員間で注意し合って初心を忘れないようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) おやつ時、食後のひと時など、又就寝準備中などに声掛けし、思いを引き出したりしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 都合は優先してないが、その日をどのように過ごしたいかは出来てないと思う。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 身だしなみまで、おしゃれまで気が回っていないと思う。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) ほとんどの方は食事の準備を手伝うことが出来ない。出来そうな方もいらっしゃるが、協力的ではない。食後の食器を流しまで返却くださる方もいる。 (外部評価) 食材は職員が買いに行き、旬の食材を使うことを心がけ、協力医療機関のメニューを参考にして栄養面にも配慮している。メニューや朝食の時間等は利用者に合わせているためユニットごとに異なっている。食事の形態や盛り付け等も利用者の状態に合わせている。利用者はできることを無理なく行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 一人ひとりに応じて支援している。水分がむせる方にはトロミをつけたり、お茶ゼリーを作ったりして、水分量が確保できるようにしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) プライバシーに配慮した声掛けをしながら、食後の口腔ケアの支援をしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄状況を記録しながらパターンを把握し、極力トイレでの排泄支援を心掛けてはいるが、年々、おむつ使用回数（枚数）が増えているのは事実である。	
			(外部評価) 重度化に伴いオムツの使用が多くなってきているが、できるだけトイレで排泄できるように声かけやトイレ誘導に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 野菜や十分な水分を摂っていただいたりして気をつけていても便秘になりやすい方が多く、予防についてはもっと努力すべきと思う。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 曜日・時間帯を決めている。 時々入浴拒否をされる方などは、無理強いせず、その気になった時入ってもらったりしている。	
			(外部評価) シャワー浴の設備もあり、浴槽に入れない場合の対応もできるようにしている。手すりの設置も工夫し、安全に入浴できるよう配慮している。浴室は明るくきれいで掃除も行き届いている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 高齢の方が多いため、日中に於いても休息してもらったり、一人ひとりに合った支援をしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 投薬内容表のファイルを作り用法や容量を理解し、気になる変化があったときは副作用をすぐチェックしている。定期薬を処方していただくときも、本人の状態を説明し服薬調整をしてもらっている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 車椅子、押し車を使用する方が増えたため体を動かすことは減ってきたが、花の好きな方は庭で花を取ってきて部屋に生けたり、海岸まで散歩したり、タバコを嗜む方は職員詰所のカウンターで吸っていただいている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 以前は出掛けられていたが、寝たきりの方・車椅子の方が6名いらっしゃるので、頻回には出掛けられない。ホームの庭や海岸、近所のお墓、一階の図書コーナーなど、天気の良い日や職員の時間が空いたときに出かけている。 (外部評価) 以前は外出に出かけたり遠出のドライブを楽しむなど、外出する機会も多かったが、車いすの利用者も多くなり、日常的な外出の支援が難しくなっている。	家族の協力を得たり、ユニット間での職員の連携等により、できるだけ利用者の希望に添って外出する機会を確保する取り組みを期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) お金を持たれているのは一人で、その他の利用者はお金を使えない方で、お金をお金と認識できない方もいる。外出した時は、職員が一人ひとりのお金を持ち、買い物の際は職員が支払いを手伝っている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 自ら電話を出来る方は一人で、支援している。手紙を送る時も支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 洗面所に季節の花を飾ったり、カレンダー等、季節感を取り入れ工夫はしていると思う。	
			(外部評価) 台所に仕切りがないため食堂・リビングは広く、明るく清潔で居心地のよい空間となっている。利用者はリビングに集まってゆったりとテレビを見るのが楽しみの一つとなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 自由に動かれる方はほんのわずかで、その方たちは思い思いに過ごしていると思う。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 入居時に、出来るだけ馴染みの物を持ってきていただくようお願いはしている。馴染みの物を持ってこられる方もいられるが、汚れ等を気にしてか、自宅から使い慣れた物はあまり持ってこられず、新しいものを購入する方もいらっしゃる。	
			(外部評価) 各居室には押入れがあり、荷物等を整理することができるため居室を広く利用するため、使い慣れた家具や仏壇等を持ち込んでいる利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 自由にして頂いているが、自立した生活出来る人が少ない。安全に安心して生活できるよう、見守りしながら援助している。	